

多賀工業会千葉県支部会報

(茨城大学工学部)

第15号

多賀工業会千葉県支部 第23回総会開催の御案内

総会日時 平成8年7月21日(日曜日) 13:00 - 18:30

総会会場 船橋グランドホテル [☎0474-25-1121]

会費 8,000円 [平成2年以降の卒業者は5,000円]

総会次第 ① 受付 12:30より - 13:00 [バス出発]

② 船橋グランドホテル ←・→ 県立現代産業科学館

③ 県立現代産業科学館 [☎ 0473-79-2000(代)]

IMAX・DOME・THEATER 14:10-14:55

館事業説明; 鉄についての特別展示-館内見学

④ 総会・記念撮影 16:30 - 17:00

⑤ 懇談会 17:10 - 18:30

備考 1 船橋グランドホテル JR総武線・京成線 船橋北口徒歩5分
仆ヶ子-が-隣り

注意: 今年の会場・フローラ西船と違います。

2 出欠は同封の葉書で遅くとも7月16日迄に。それ以後は電話で

☎ 函 0474-85-0078 新 0474-83-0605 傳 0473-24-1067

私達は日常『話』をする機会が多い。クラス会・一杯飲み屋・ビジネス等で『話』をする場を持つ。『話』というのは相手に対するサービスである。自分の考えや感情が相手に伝わらなくてはなんにもならない。だから‘聞け’ではなく‘聞いていただく’のである。とことで、サービスというと日本人はすぐ卑屈になる。そうでなく奉仕して相手が喜ぶさまをみて自分の喜びとするのである。それには、自分より先に相手をいい気にさせなくてはならないが、日本人は凡そトツキの悪い国民で、なかなか相手と打ち解けようとしない。そして自分ではその場面をなんとかしなくてはと焦る。

その白々しさが日本人を他人嫌いにする。他人を入れずに家族だけで暮らすことを生活の方法としてきた日本人の伝統が人々の心が明るくなるような時代感覚であるにもかかわらず、日本人の心理を憂鬱にってしまう。

しかし“沈黙が金である”時代は去った。飛行機・新幹線或は陸上の交通網が発達して自動車が日本の社会を朝から晩まで駆け回るようになると今日北海道の人と、明日は沖縄の人と、明後日はアフリカの人と『話』をする必要に迫られる時代となった。ただ、いくらコンピューターが発達しても機械やデータは人間の気持ちまでは伝えてはくれない。直接、相手に会い少なくとも電話をして、お互いの考え方・心の在り方を通じあうのだ。その根底は貴方がどうゆう人間性をもった人かという“人格”の問題なのだ。

それを助けるためにはやはり『話し方』の技術も多少関係する。

勿論『話』というのは貴方の遺伝・環境・教養・性格・仕事・思いやりの心など貴方が持っているもの全てが集約されて出てくるのであって人間は自分自身を、ごまかして生きていけるものではない。しかし山に登るのに色々の道があるように、技術の後押しされながら自分を少しずつ改造してゆき結果として良い人間関係をつくることも一つの手段である。

今程、日本人の心の在り方が大きく問われている時代はない。
もう物や金には飽きたし、物や金だけの世の中がドンナに住にくい社会であるか？ いやというほど骨身に応えた。

『心を復活』させなくてはならない時がやってきたと思う。

平成7年度・事業報告および決算報告（H7・3・1－H8・2・29）

1 平成7年度・事業報告

- ① 支部幹事会開催 日時 平成7年5月24日（金） 場所 フローラ西船
- ② 第22回支部総会 開催日時 平成7年7月29日 場所 フローラ西船
- ③ 第6回 親睦ゴルフ競技会 平成7年10月25日 場所 千葉SPCC
- ④ 会報関連 会報 第13号・第14号 編集・発行・発送。
- ⑤ 第4回 工場見学並びに忘年会 平成7年12月2日（金）
旭硝子株式会社 船橋工場 忘年会 船橋グランド・ホテル
- ⑥ 他支部総会 栃木・埼玉・静岡・東京・水戸勝田・出席

2 平成7年度・決算報告

収入の部			支出の部		
費目	金額	摘要	費目	金額	摘要
解任繰越金	43,857		総会費	354,614	
本部助成金	150,000		交流費	58,000	
総会費	248,000	8,000×31	通信連絡費	203,871	
年会費	432,000	2,000×216	会議費	65,300	
広告費	45,000	5,000×9	会報制作費	196,729	13号 14号
雑収入	42,342	10,000×1	雑費予備費	22,608	
		8,000×4	小計	901,122	
		342	剰余金	60,077	
合計	961,199		合計	961,199	

別途積立金 400,000円 [郵便定期貯金]

平成8年2月28日 監査の結果誤りないと認めます。

監事 森 勇一 監事 富田 宣吉

平成8年度事業計画ならびに予算案 (H8・3・1-H9・2・2)

1 平成8年度・事業計画

- ① 幹事会 ② 第23回 総会 (表紙に詳細案内)
- ③ 第5回 工場見学並びに忘年会 平成8年11月または12月
- ④ 第7回 親睦ゴルフ競技会 平成8年10月頃
- ⑥ 他支部総会ならびに本部理事会出席

2 平成8年度 予算(案)

収入の部			支出の部		
費目	金額	摘要	費目	金額	摘要
繰越金	60,077		総会費	340,000	
本部助成金	150,000		交流費	70,000	
総会費	240,000	8,000×30	通信連絡費	250,000	
年会費	480,000	2,000×240	会議費	70,000	
広告費	40,000	5,000×8	会報制作費	250,000	15号 16号
雑収入	42,000		雑費予備費	32,077	
計	1,012,077		計	1,012,077	

別途積立金 400,000円 [郵便定期貯金]

平成7年度・年会費納入者氏名 (略敬称)

16 吉田 俊 17 今村 勝 20 斎藤勝夫 26 熊谷達夫
 22 関 誠治 川又慶三 23 高橋博太 川田浩宗 関根 要
 31 新田和夫 32 大和田武義 33 藤岡英智郎 34 芝山祐芳
 35 渡部林二 37 桑原 曠 遠藤芳勝 坂本 勝 38 市村敬可
 39 近藤曠史 41 木村 保 45 時岡誠剛 46 松本 茂
 47 石川一敬 53 小倉勝彦 56 中村祥孝 59 鈴木 馨
 63 都築宏昌 H1 秋葉泰男 石川善文 H2 石川 明
 H3 舟川 勲 H4 内田 浩 賀川宣英 坪井信行 H7 高岡直美
 (計 35名 累計 216名) 御協力ありがとうございました。幹事一同

平成8年度卒業生氏名 (略敬称)

機械工学科 石橋丈厚 井潤 徹 渋谷信博 田子 敏 土屋 顕
柳沼秀樹 米村淳一 多田昌直

電機工学科 勝田 総 電子工学科 大河内隆行

情報工学科 浅井宣祐 勝田 直 川上 輝 須飼貴規 寺島裕一
宮崎大輔 濱田宣久

物質工学科 飯田 修 久保田謙 中村孝志 保科浩一 小早川真人

数理工学科 平野俊之 大森 隆 小林 園 迫田修司 瀬戸隆史
津崎公明 長井一実 福島正人 秋葉正裕

システム工学科A 宮崎 徹 目良彰久

システム工学科B 大内弘和 坂田隆夫 遊佐 努

都市システム工学科 小笠原晋 藤原宏将 古田裕幸 山本磨命
小原恵一 別所 薫

会員消息

御逝去

22 電気 御園生 計夫氏
23 電気 杉田 友一郎氏
謹んで御冥福をお祈り申し上げます

高山 和夫 二十二機械

櫓いでて群れなすリスに

大島の椿祭りも花は未だし

打ち終へて過ぎし五十年

語り継ぐ六棋会員湯河原の集ひ

“二百海里完全実施”のデモに附く

津々浦々からの六千名と

戴きし賀状寒明け読み返す

筆はあたたかき面影浮かぶ

半世紀底曳漁業を支へ来し

遠藤さん傘寿となれり友集まれり



今年の冬は寒さが厳しく、四月になっても降霜があり、桜の季節も若干遅れ気味であったが、桜の花に誘われて四月下旬に出掛けることにした。新幹線で京都駅を降り観光バスに揺られて豊太閤ゆかりの醍醐寺—桜の名所で拾円硬貨に取り上げられている—。また、平家との戦いに破れ自害した源三位頼政の墓のある宇治平等院を観て高野山にむかった。

高野山は和歌山県北東郡に横たわり山頂平地には弘法大師（空海）開山の金剛峯寺や大師廟を中心に百二十拾余の寺院・宿坊・商店が軒をつらね高野町が形成されている。明治維新後に女人禁制が解かれ観光地となっている。平等院を出て数時間、奈良県・大阪府を経て和歌山県に入り高野山の北麓にある九度山町に到着する。ここに‘慈尊院’がある。空海の母‘阿刀自’がわが子を慕って来たが高野山は女人禁制のため入山出来ず、ここに棲みついた。親孝行の空海は、年に九回程山を降りて母に会ったので九度山という。

女人禁制の悲話は‘荊葢道心と石童丸’の伝説が謡曲・義太夫・薩摩琵琶等で有名である。九度山町には真田幸村が隠棲した‘真田庵’もある。九度山町を過ぎて午後六時頃に宿坊‘天徳院’へと到着した。ここは加賀前田藩ゆかりの寺院である。現在の宿坊は大部屋もあるが家族で泊まれる小部屋もあり一般の旅館とかわらない。ただ食事は精進料理であり魚・肉は出ない。給仕は高野山大学の学生や修業の僧侶が行う。翌日は‘奥の院’巡りにでかける。専門のガイドが同行する。

奥の院まで杉木立の間の2Kmにわたり三十万基ともいわれる墓や供養塔が
ならんでいる。戦国武将・会社の巨大もの・白蟻の供養塔までありガイドの話
では比叡山を焼き打ちにした織田信長の墓石も近年見つかったという。
五輪塔の一番下の方形部分のみをつくり五輪塔を簡略化したのが一般の墓石だ
とのことだ。

院の奥は‘空海の廟所’である。燈籠堂の後ろの一段高い所の瑞垣を巡らし
た中にある三間四面宝形造の建物である。承和二年（835年）三月二十一日
空海が入定したのち予め定められたこの地へ遷し五輪塔を造って小堂を建て廟
としたものである。

‘空海’は延暦二十五年（805年）入唐・帰国後真言宗の開祖となり従来の
奈良仏教にかわり最澄の天台宗とともに平安時代の新仏教として興隆した。

‘真言宗’は現在、高野山派・豊山派・智山派等多くの流派に別れている。
奥の院，巡りの高野山をあとにして数時間バスに揺られた揺られ‘源義経’や
南北朝の歴史と千本桜の咲きほこる吉野山に到着した。



定住の地として船橋市に居を構えて早いもので十年目を迎える。
父親が転勤族であったので物心ついた幼少の頃から数えて大学を卒業するまで十回の引っ越しを経験した。

就職の時も転勤がつきものは承知のうで会社（当時の国鉄）を決めたが、これも子供の頃から旅好きであり自然と身に付いた引っ越し慣れに加えて新しい土地での今まではとは違った生活や人々との出会いなど未知への好奇心というのか、ある種の憧れみたいなものが相当影響していたのかもしれない。

JR発足時から退職するまでの二十四年間で転居の数は十四回に及び、北は北海道から西は広島まで一都・一道・一府八県にもなった。
“住めば都”の諺どおり、それぞれの処が趣の異なる良さがあり、仕事の面は別にして楽しく懐かしい思い出となっている。

ところで最近経済企画庁が纏めた『豊かさ指標』は“住む”“働く”など8つの生活領域について百十六の経済・社会統計のデータを使い『豊かさ』を偏差値で表したものであるが下位にランクされた埼玉・栃木などの県知事は一様に不満をあらわし、その持つ意味は何なのか、納得出来ないと言議を醸している。千葉県は下から数えて四番目となっているようだが、今までの他の土地での生活体験と比べて私の実感からすると、もう少し上のランクに入っても可笑しくないと思うのだが・・・。

この指標の中には気候は加味されていないようだが、
北国には北国しかない良い面がある。一年のうち半分位が雪に閉ざされた陰気な暗いイメージの暮らしも過ごし方一つで随分違ったものとなる。幸いにして私達家族はスキーを覚えたお陰で冬の寒さも全く苦にならなかつた。

このように、それぞれの人の考え方・受け止め方によって、そのイメージは大分違ってくると思う次第である。



転居	22 金属	田村 耕治	佐倉市上座469
	35 化工	相沢 浩司	大阪府南河内郡美原町北余部365-6
	47 電工	金坂 潤	千葉市若葉区千城台東2-30-16
	52 電工	富永 哲夫	茨城県土浦市古籾1-20
	H4 精工	荒城 典雄	茨城県日立市大壺町4-26-21
	H4 精工	阿部 哲也	神奈川県高座郡寒川町小谷2-1-6
	H4 精工	坪井 信行	静岡県浜松市三新町714-6 宿舍12号
	H5 電工	伊藤 実	茨城県日立市日高町4-7-5 南静寮
	H7 電工	林 宏光	茨城県東茨城郡内原町969-21

塚越としを 二十五電気

吃 水 線

餌付け鴨 しぶきの音を競ひけり

花衣 触れあふ色の艶めきり

びびびと蒼き放電 桜の夜

鴨 翔ちて花のあまたをこぼしけり

山桜に紛れる 明治男かな

手袋を肩よりさげて 手が四つ

水面にて花片の出会ふ 水鏡

千日手 解けし思いの花疲れ

春の雪 テールランプの赤を溜め

おおおと小意気なつむり 初芝居

達磨市 小粋な 福 を選びけり

どんど火の気負ふ片側 崩れけり

寒明けや 梢先こぞる日のつぶら

千両の風を筋とし 簪の目

無縁坂 萬の芽吹きを日の誘ふ

漫遊や 吃水線に春の夢

紫木連 千の燭台掲げあふ

水仙や 遠き雲ゆく海の街

萬緑を掬はむばかり たなごころ

萬緑や 全天井が玻璃なせる

その一

世の中はなんの“糸瓜”と思えどもブラリとしては過ごされもせず。私も少しは暇をもてあますこの頃です。さてこの“ヘチマ”ですが、漢字では“糸瓜”一文字とわり読めば“イトウリ”一何故これが“ヘチマ”になったのか？ 徒然なるままに一考。

一昔前・家庭で“ヘチマ”は無くてはならない流し場の主役。江戸時代では、この家庭の必需品を商売にしている輩が大道を大きな声で「イ・ト・ウ・リーイ・ト・ウ・リー」と売り歩いた。・・・然し、イ・ト・ウ・リと声を出すとどうしても「ト」のアクセントが強くなり「ト・ウ・リ」「ト・ウ・リ」となって聞こえサマにならない。そこで粋な当時の暇人が、ドウモ色気がない。何とかならぬものかと考えた。

「ト」は「イロハ」では「ホヘトチリ」の「ヘ」と「チ」の間にある。すると「へち間」・・・ヘチマ・・・これこれ・・・丁度、売り声にも最適。

『ヘチマ』・『ヘチマ』・『へちま』長閑かですね！

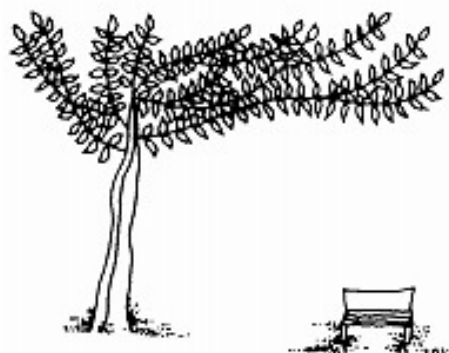
その二

『石橋を叩いて渡る』御存知一非常に用心深い人の代表格です。マテヨ。この人はどんな道具で“石橋を叩いた”のだろう。よく列車の車輪を保安係の人がハンマーを叩いて割れを聞いているのをみたことがあるが車輪だからよいので石橋は割れたら落橋につながる。あのハンマーで叩くとすれば腰を曲げて足元を叩くしか出来ない。

若し割れていれば自分も川へドボン。これでは意味はない。用心深い人はマサカこんなことしまい。杖なら金剛杖級の重いもので少し前方を叩くのだがこれはインパクトの力不足でNG。通り慣れた道の石橋ならば、その都度叩く必要もあるまい。叩くのは不案内な石橋であると思う。

では、この御人、旅をする時ドンナ道具を携えていつったのでしょうか。

サァ！皆で一緒にかんがえましょう。



『17番・ホール』の“ラフ”のなか。

24機械 三幣 正人

『多賀』最後の卒業生も“還暦”を超え“古稀”を迎える年齢になった。浪人一年・落第一年の私などは“古稀”（杜甫の詩－人生七十古来稀ナリ）になってしまった。例えば適切じゃないかもしれないが「ゴルフ」で言うなら、『17番・ホール』で「テーショット」し終えた位の年齢になってしまった。

ホール・アウトまで、あと『1・ホール』を残すのみだ。

最後の『1・ホール』はトテツもなく長い「パー5」であるのか、極端に短い「パー3」なのか皆目見当がつかない。

“もう『1・ホール』しかない”と、ちじこまって小さなクラブで消極的に攻めるべきか？ “まだ『1・ホール』ある”と闘志満々大胆にウッドで積極的挑戦するべきか？ 選択の岐路に立っている。

『17番・ホール』のテーショットは意識して“ドロ－”に打った筈なのに大きく“フック”して、林の中の深い“ラフ”の中。探し捜し求めてなんとか“球”は見つけたが、到底“グリーン”は狙えない、フカーイ“ラフ”の中。
辛抱して“ただ、フェア－ウェイに出すだけにするか”一寸無理だが欲ばって“次に、グリーンを狙える好位置に出すべきか”思案している。

過去の経験から最善の球道をイメージする。しかし技術がともなうかな？ と、腕と相談、次の『一打』を目の前にして肩に力をいれず慎重に逡巡している。もうスコア－など、どうでもよい。

会社紹介

全国仲人連合会 船橋センター 支部長 原田 正夫 16精密
幸をつかもう！ ☎・FAX 0474-32-1615 鶴海神5-21-12

地曳税務会計事務所 税理士 地曳 一夫 17金属
☎・0473-61-3310 〒271 松戸市二十世紀が丘萩町50

世界に耀ぐプレス (株)仙電工業 技術顧問 山田 泰雄 19機械
☎・0474-85-0078 〒276 八千代市八千代台西3-2-23

折りによる世界平和を 嶋田製作所 嶋田 清 20金
☎・0473-25-2535 〒272 市川市平田1-17-8

大久保税務会計事務所 税理士 大久保勝躬
☎・0473-36-1662 〒272 市川市北方2-8-21

インテリア・イチキ 一木 忠 23金属
☎・0473-43-0827 〒270 松戸市幸田32-1

岡安産業株式会社 岡安 孝捷 26金属
☎・0473-73-5894 〒272 市川市宮久保2-17-6

株式会社新日軽 顧問 税所 裕 28金属
☎・0474-83-0605 〒276 八千代市八千代台南2-15-2

株式会社高屋 顧問 三幣正人 24機械
☎・0473-24-1067 〒272 市川市菅野3-5-11